

# 教員研究紹介

## 家庭科教育学コース

### 加賀 恵子 准教授

(家庭科教育学)

学校を地域共同体に根ざし、多様な人々が学びあう場として再構築する取り組みが展開されるなか多様な社会資源との連携・協働によるシティズンシップの育成のための家庭科教育カリキュラムの開発研究をすすめている。

また、生活の協働性・文化的同質性で構成される家庭科における「地域」に注目した地域教材開発や、家庭科教育実践を通じた教師の力量形成に関する研究にも取り組んでいる。

### 鈴木真由子 教授

(家庭科教育学 兼 生活経営学)

家庭科教育のカリキュラム、方法論、内容論について学校教育現場と連携しながら研究を展開している。

近年は、生活経営的視点で「生死」「いのち(性・生・死)」「ジェンダー」を切り口にした授業づくり、教材開発に取り組んでいる。

また、実践的推論プロセス、批判的リテラシーを基に、シティズンシップの育成を目指した教師教育カリキュラムの研究を進めている。

### 大本久美子 教授

(家庭科教育学)

現代の生活課題に対応した家庭科の授業を行うための学習プログラムと教材を開発している。

主な研究テーマは、「家政学と家庭科教育の関わり」「教科教育の教育内容と教育方法」「リーガリテラシーを育む消費者教育」についてである。

現在、小・中・高校生の発達段階をふまえた法教育と消費者教育が融合した学習プログラムの開発研究に取り組んでいる。

## 生活文化・生活科学コース

### 中田忍 教授

(食物学)

デンプンやヘミセルロースなど植物や微生物が生産する多糖は食品中に含まれるだけでなく、増粘剤等の添加物として多方面で利用されている。

当研究室では現在、食品中の多糖類や糖たんぱく質について新規成分の分離、その後の糖鎖構造および機能や物性の解析を行い、さらにそれらを用いた食品の物性変化についても研究課題としている。

### 井奥加奈 教授

(食物学)

野菜類を摂取するのに家で調理することは必要不可欠であるが、基本行動としての食行動や調理行動に対する意識は決して高くない。本研究室では、食品科学的な視点から、調理過程における野菜類の機能性成分含有量とその活性の変動、呈味成分やテクスチャーの変動を中心に野菜類を加熱した時のおいしさを明らかにし、食育に還元するための基礎資料作りを行っている。

### 小崎恭弘 准教授

(保育学)

育児の営みは、人の生活の根幹をなすものである。しかし急速に発展した現代において、生活様式や価値観なども大きく変化し「子育て」においてもその転換期を迎えている。

そのような育児や家族の変化をとらえ研究を行う。子育て支援現場におけるフィールドワーク・行政や企業におけるワークライフバランスの実態調査等に取り組む。

### 山田由佳子 准教授

(被服学)

被服と人間との関わりを基本テーマとし、実験を中心としてアンケート調査、市場調査なども取り入れて、研究を行っている。現在の主なテーマは、乳幼児ズポンのウエスト部分の物性に関する研究である。

その他、熱伝導を考慮した最適な銅つかみの作成や、羊毛フェルトの作成条件の検討など、家庭科における被服実習の教材開発にも取り組んでいる。





国立大学法人

大阪教育大学

# 大学院教育学研究科 家政教育専攻

## 専攻の目的

家政教育専攻では、家庭科教育に関する高度な実践的教育を行い、専門的な知識と技術を修得させ、学校教育の現場において主導的な教育活動を担うことのできる家庭科教員の養成を目的としています。

そのために、専攻に生活文化・生活科学コースと家庭科教育学コースの2つのコースを設け、今日の多様な教育的課題や生活問題を総合的視点から捉え、それを学校教育の課題として整理し、幅広い授業展開のあり方を考察することによって、家庭科教育・家政教育に実践的に取り組める教育者並びに教育的立場から生活課題の解決策を提起できる専門家の養成を目指します。

※小学校教員、中・高等学校教員（家庭）一種免許を持つ人は、専修免許が取得できます。

## 特色

現在、日本は、かつて経験したことのない少子高齢社会を迎え、家族や地域のあり方が大きく変化してきています。幼い子どもや高齢者など弱者に対する虐待、少年非行、ひきこもりなど、子育てや介護などをめぐる「人と人との関わり」がうまくいかない問題が次々にでてきています。非婚、離婚、一人ぐらしの増加など家族形態が急速に変化し、また、同時に、身近な暮らしの中で人間のいのちに直結する食や、衣・住生活などの安全性に関わる問題も次々に出てきています。

子どもたちの健全な育ちを支える生活環境について考え、生活自立の基礎を身につけさせる家庭科は、人間として、生活者として、消費者として、どのような生活をすればよいのかを考えさせる教科です。個を大事にする一方で、共生・連帯が可能な消費者市民の育成は、これからの家庭科の課題でもあります。

単に生活に関わる知識や技術のみを伝えるのではなく、どのような価値を選択し、意思決定するのか、そしてそれがどのように自分の実生活にいかされるのか、実践力や問題解決力、人間関係形成力などを育成するためには、学習形態、学習方法に工夫が求められます。ロールプレイングやグループ討議など、児童・生徒が主体の「学習者参加型」授業によって、学習者である児童・生徒の心を揺さぶる学びを構築しなければなりません。

大阪教育大学家政教育講座では、このような課題にこたえるため、実践的教師力の育成を目指したカリキュラムを展開しています。

カリキュラム、修士論文タイトルなど詳しい情報は HP へ！

アドレス：<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kasei/>

(大阪教育大HP→学部・大学院→家政教育専攻→家政教育講座のページ から入れます。)